

政治学概論 I 《2025》

#6 民主主義と全体主義（2）

苅谷 千尋

Monday, 2, Feb, 2026

I. 『関心領域』（2023年）

- 公式サイト
- 監督(ジョナサン・グレイザー)インタビュー

グレイザー わたしが考えたのは、人間の原始的な性質である暴力性や、加害者のなかにある我々との共通性について語ることでした。彼らは異常者ではなく、段階的に大量殺人者となった普通の人々であり、自分たちが直接手を下すのではなくその犯罪行為からは大きく隔たっていたために、自身を犯罪者とは思っていなかった。壁の向こうで起こっていることに対する彼らの無関心、世界の恐怖を切り離して無視することは、自身の贅沢と安定を保つためであり、そういう傾向は、わたしたち自身に共通するものもあるわけです。それこそが本作を今日の観客に関連づける鍵でした。

- 研究者

- 田野大輔（ナチズム研究）
 - 「関心領域」のヘスは無関心でも「凡庸」でもない ナチ研究者の警鐘（朝日新聞、2024年6月6日）

映画のレビューを見ていると、ヘス夫妻は家のすぐ隣で起きている虐殺に「無関心」だった、とする指摘も散見されますが、それは違うと思います。彼らは単に「無関心」だったわけではない。むしろ確実的に虐殺や搾取に加担して、利益を得ている。その上で、こうした犯罪から積極的に目を背け、遮断しているんです。
 - 朴沙羅（移民研究）
 - ベリー摘みの夏 「関心領域」の向こう側を見ないことにする私たち（朝日新聞、2024年7月11日）

日本から来た学生たちは、きっと技能実習制度や育成労働制度について「そのように設計されているなら、従わなければならない」と自然に思っているだろう。何かについて詳細な規則やルールを設け、若い人々に自己決定や異議申し立ての方法も教えることなく「決まったことなら何であっても従え」と教えてきたのは、私を含む大人世代だ。私や、私の親しい人たちもまた、自分たちの権利が侵害されても「従え」と言われば従うのが当然だと思っているだろう。外国人の権利を保障しない労働環境が当たり前のものとして容認されてきた背景には、「国民」の権利を保障しないことを当たり前と見なす社会があるのかも知れない。

II. 明日の授業と宿題

- 政治制度と政治過程（1）；政治制度と政治過程（2）
 - 2026年2月3日（火）10:25-; 13:00-
 - 教室：教養棟2号館401教室
- 宿題：
 1. 授業の感想：
 - 回答先： Google Form
 - 締め切り：2026年2月2日（月）23時59分
 - 2限、3限、どちらの内容で書いても問題ありません

2. リーディング・アサインメント：

- 文献：「[あすへの考] 【現代の労働環境】「無駄な仕事」新自由主義の弊害…社会学者 酒井隆史氏」
- 回答先：Google Form
- 締め切り：**2026年2月2日（月） 23時59分**